

# ナシ園に仕事アリ

## 加賀市 若者就労支援事業 都市部の3人研修開始



ナシの木の枝はらいをする  
若者たち＝加賀市奥谷町で

業として、約六十本の木の枝を専用のハサミなどを使って切っていった。五日もナシ園で作業をする。大阪府から来た中島飛鳥さん(三〇)は「体力を使うけど、体を動かすのは気持ちいい。将来は加賀市に住むことも考えてみたい」と話した。

加賀市は今月下旬にも第二弾として別の七人の研修生を同梨生産組合で受け入れる。研修生計十人は四月以降も同市を訪れ、農作業を続ける予定。(古田秀陽)

加賀市は四日、都市部から無職の若者を受け入れ市内で研修などを行う若者等就労支援事業を本格的に開始した。初めての受け入れとなった東京、大阪からの二十～三十四歳の研修生の若者二人が同市奥谷町のナシ園で農作業をした。

加賀市は大阪府泉佐野市と連携し、同市のNPO法人「おおさか若者就労支援機構」の協力を得て同事業

を進めている。同機構は農業に興味のある若者を募り、青森県弘前市のリンゴ農家などで研修生として農業体験を実施。今回、後継者不足の問題を抱える加賀市奥谷町梨生産組合が研修生を受け入れた。人口減少に悩む同市は、若者の将来の移住、定住につながることを期待している。

三人はナシ園でナシの木の植え替えのための準備作